



# IB DP CAS HANDBOOK

SAPPORO KAISEI SECONDARY SCHOOL



## CAS (Creativity 創造性・Activity 活動・Service 奉仕)

1. CASに関する理念	P.2～3
2. CASの概要	P.3～4
3. CASの学習成果	P.4～5
4. 活動規準	P.5～7
5. 心構え	P.7
6. CASの段階	P.8～10
7. コースデザイン	P.11～14
8. 認識と賞賛について	P.14
9. リスク評価と管理	P.15～17
10. 保護者同意書	P.18
11. 「知の理論」(TOK) および「課題論文」(EE) との関連付け	P.19
12. MYPにおける奉仕活動と行動	P.20
13. SA・CASの実施に伴う保険について	P.21
14. CAS用語集	P.22
15. 付 録	P.23～
・ Understanding yourself	
・ CAS Report(SAMPLE)	
・ リスクを伴う活動に関する同意のお願い	
・ CASの活動におけるSNSへの公開について	
・ ボランティア活動保険について	
・ スーパーバイザー依頼書	
・ CASチェックリスト	

## 1. CASに関する理念

…何かを信じるならば、ただ考え、話し、書くだけでなく、行動しなければならない。

ピーターソン (Peterson 2003)

「創造性・活動・奉仕」(CAS)は、DPの「コア」を構成する3つの必修要件の1つです。生徒は、プログラムを通じて、教科学習と同時並行して多岐にわたるCASの活動を行います。CASは、以下の3つの要素で構成されています。これらの3つの要素は、活動の中で、さまざまに組み合わせられます。

### ◇創造性 (creativity) : 創造的思考を伴う芸術などの活動

・自分で創ったあるいは自分で解釈を加えた創作作品や公園に通じるアイデアを探究し、広げること。音楽、演劇、映画、デザイン技術、美術、ダンス、ファッション、その他の創造的に考えることを必要とする活動が含まれる。(例:合唱団に加わって活動する。ファッションのデザインに取り組む)

### ◇活動 (activity) : DPでの教科学習を補完し、健康的なライフスタイルの実践を促す身体的活動

・新しいスポーツに挑戦したり、運動の能力を高めたりすること。(例:サッカー、ヨガ、ダンス、エアロビクス、サイクリング、ハイキング)

### ◇奉仕 (service) : 学習に有益であり、かつ無報酬で自発的な交流活動。すべての関係者の権利、尊厳、自律性を尊重

・コミュニティの真のニーズにこたえるために共に働き、コミュニティに互恵的にかかわること。コミュニティのニーズを調査して特定し、すべての関係者の権利、尊厳、自由を尊重する行動計画を決定することで「奉仕」を行う。(例:高齢者のための朗読、社会的な運動の支援)

※1つのCAS活動=1つのCAS要素とは限りません。例えば恵まれない子供たちのためにスポーツイベントを企画すれば「奉仕」と「行動」の両方の取り組みにあたるかもしれません。例えば、NPO活動をアピールするためのパフォーマンスの振り付けをすることは「創造性」「活動」「奉仕」に関わるかもしれません。

CASでは、体験的な学習を通じて、生徒の人間的成長と対人スキルの発達を促します。同時に、DPでのアカデミックな学習による重圧を和らげるという重要な側面もあります。良いCASプログラムとは、やりがいもあり楽しくもあり、自己発見の契機となるものです。各生徒の出発地点はそれぞれ異なるため、目標もニーズも異なりますが、多くの生徒にとって、CASの活動は意義深く、人生を変えるような経験となります。

生徒の育成に資するために、CASの活動は、以下の要素を含まなければなりません。

- ・意味のある成果をもたらす具体的な体験と目的を伴う活動
- ・個人的な挑戦—挑戦する課題は生徒の成長を促すもので、達成可能な範囲のものであること
- ・計画や、プロセスの見直し、報告などでの深い考察
- ・成果および個人的な学習についての「振り返り（リフレクション）」

提案されるCASの活動はすべて、この4つの規準を満たす必要があります。また、DPでの他の学習を反復したものであってはなりません。

DPでは、同時並行的な学習を重視しています。したがって、CASの活動を定期的に、できる限りプログラムの全期間にわたって行うことが重要です。少なくとも18カ月間以上続けるべきです。

CASを完了することは国際バカロレア資格（IB資格）の授与の必須要件です。CASは正規の評価は行われませんが、生徒は自分が取り組んだ活動について記録し、7つの主要な学習成果を達成した証拠を提出する必要があります。学校のCASプログラムは地域事務局によって定期的にモニタリングされます。

## 国際的な次元で行うCAS

### 『Think globally, Act locally』

IBプログラムの目的とは、国際的な視野を持ち、またお互い同じ人間性のもと、共に地球を守るという意識を共有し、よりよい平和的な世界をつくることで貢献できる人材を育てることである。（IB学習者像より）

「より平和的な世界」をつくることは、とても大きな目標です。その大きな目標にむけ、身近でできる小さな活動から始め、そこから国内地域でできる活動、国際的にできる活動へと広がっていきます。「国際的な視野で考え、今自分ができることを身近な場所から始める」—この意識が大切です。

#### ※ 国際的側面

すべてのIBプログラムは、人類に共通する人間らしさと地球を共に守る責任を認識し、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する人間を育てます。

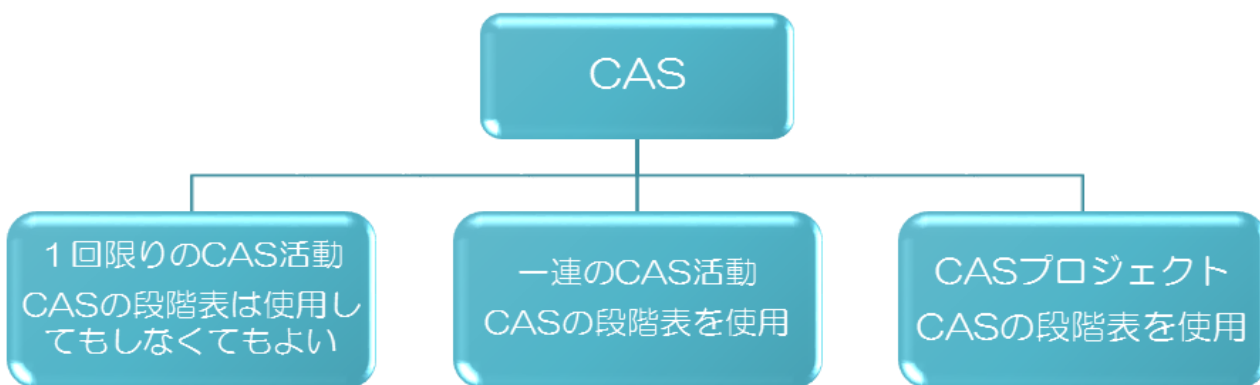
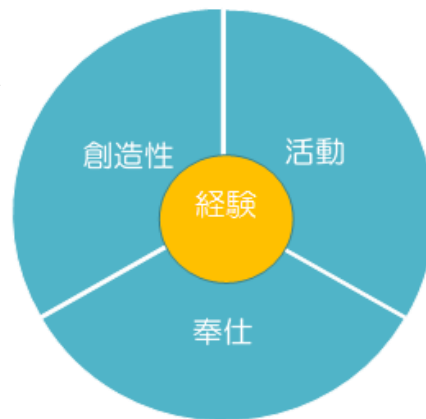
IB資料（英語版）『IB learner profile booklet（IBの学習者像パンフレット）』（2006年3月刊）

「より良い、より平和な世界」を築くことは、大きな目標です。この目標に向かう努力は、地域や、国内、国際的に行われる数多くの小さな取り組みから成っています。「グローバルに考え、ローカルに行動する」（Think globally, act locally）というモットーの行動原則に沿って、CASの活動を大きな文脈の中で捉えることは重要です。学校周辺で社会的および文化的に異なる背景をもった人と活動することは、大きな国際的なプロジェクトを行うのと同じくらい相互理解を高めることになり得るからです。

「創造性・活動・奉仕」（CAS）指導の手引きより抜粋・引用

## 2. CASの概要

CAS活動とは、Creativity、Activity、Serviceのどれか（一度に複数を含むことも可）に密接した活動である必要があります。また、自分自身の興味、スキルなどを活かし、伸ばす活動であること、IB学習者像を想定した活動である必要があります。DPの教科やコアで行った活動はCASに含めることはできませんが、部活動やユニット、委員会（局）活動などは活用できるかもしれません。



CAS活動の種類には上の表のように

- ① 一回で完結するCAS活動
- ② 継続的に行われるCAS活動
- ③ 18ヶ月の間に必ず行わなければならないもの。

他者と実行し、1ヶ月以上の取り組みがあるビッグプロジェクトである。

## 3. CASの学習成果

CASでの学習成果は数値化しないため、成績評価の対象としていません。CASを「完了」したかどうかの判断は「成果を収めることができたか」によります。生徒は、CAS活動全体を通じて、次の7つの学習成果を収めたことを証拠を挙げて示す必要があります。

学習成果1：自分の長所を理解し、これから個人として成長して行くべき分野を特定する。

- ・活動を通じて、生徒は自分自身について、多様なスキルや能力をさまざまなレベルで備えた個人であると認識し、今後どのように進みたいかについての選択は自分自身に委ねられていることを理解します。

学習成果 2：課題に挑戦し、その過程で新しいスキルを習得したことを実証する。

- ・新しい挑戦とは、それまでに取り組んだことのない活動である場合も、すでに行った活動の延長である場合もあります。新しいことに挑戦するとき、これまでに取り組んだことのない活動の中で、あるいは、すでにスキルを習得した活動の中で、新しいスキルを身につけことがあるかもしれません。

学習成果 3：CAS 活動を計画し、開始する方法を示す。

- ・活動を計画したり開始したりすることは、多くの場合、他者との協力の下に行われます。活動は、例えば、地域社会で行われる学校の既存の活動のように、大きなプロジェクトの一部（他の人と協力してできる活動）である場合もあれば、生徒が主導する小さな活動（自分自身の持っている知識や認識を用い、これまでの活動を継続し広げる形で行うこと）である場合もあります。

学習成果 4：CAS 活動を継続し、やり遂げる粘り強さを示す。

- ・少なくとも、活動に定期的に参加し、活動中に生じた問題に対して責任感を持つ。  
※CAS 活動を日常的に継続して行う。

学習成果 5：ほかの人と協働するスキルを実証し、その意義を認識する。

- ・チームスポーツやバンドでの音楽演奏、幼稚園での手伝いなど、さまざまな異なる活動を指します。他の人と協働する場合、「創造性」、「活動」、「奉仕」のうち2つ以上の要素を統合したプロジェクトを最低1つ行うことが要件となっています。  
※他人と協力して活動することの利点や難しさを理解し、理論的に判断できるようになる。

学習成果 6：グローバル（地球規模）な意義のある問題に取り組む。

- ・国際的なプロジェクトに生徒が関わる場合もありますが、地域または国内で活動できるグローバルな問題も多くあります（例えば、環境問題や高齢者介護など）。地球規模の課題に対する理解を発信し、それらの課題に責任感をもった判断をし、行動を起こす。

学習成果 7：選択と行動の倫理的な側面を意識し、それについてよく考える。

- ・倫理的な判断は、CAS のほとんどすべての活動において生じます（例えば、他の人と奉仕活動をしている時、運動場での活動、作曲中など）。ジャーナル（記録日誌）への記入や、CAS アドバイザーとの会話など、倫理的問題について考察している証拠（エビデンス）を示す方法にはさまざまなものがあります。

CAS を完了するためには、生徒は、上記の7つすべてについて成果を収めたことを示さなければなりません。多様な活動の中で繰り返し示される成果もあるかもしれません。

## 4. 活動規準

CAS の活動は、以下の要素を含まなければなりません。

- ・意味のある成果をもたらす具体的な体験と目的を伴う活動
- ・個人的な挑戦—挑戦する課題は自己の成長を促すもので、達成可能な範囲のものであること
- ・計画やプロセスの見直し、報告などでの深い考察
- ・成果および個人的な学習についての「振り返り」

提案される CAS の活動はすべて、この4つの基準を満たす必要があります。また DP での学習（教科・コア）を反復・流用したものであってはなりません。

生徒には、以下の事項を実施することが要求されます。

- ・CAS の体験の開始段階において自己点検し、CAS プログラムを通じて何かを達成したいか、自分自身の目標を設定すること
- ・「調査」「探究」「活動」「振り返り」を実施すること
- ・定められた時期に CAS アドバイザーと面談を行うこと
- ・18ヶ月間途切れることなく、多岐にわたる活動に参加すること。自らが開始した「CAS プロジェクト」を最低1つ含むこと
- ・取り組んだ主な活動のリストと共に活動とその成果を CAS ポートフォリオに記録すること
- ・7つの学習成果を達成した証拠を示すこと

また、CAS の活動は次のようなものであってはなりません。

- ・安全ではないもの
- ・つまらないもの、平凡なもの、変化のないもの
- ・社会的格差をもたらすもの、または社会的格差を拡大させるもの
- ・布教活動を含むもの

CAS の活動を計画する際に、学習成果を1つ以上達成することができるかを考えることが求められます。結果として、見込んだ成果を達成できないこともあるかもしれませんが、計画段階で成果について検討しなければなりません。さらに、はっきりした目的をもって活動を始めるために、目標を設定する必要があります。自分自身の役割や、自分自身が持つ機会をより明確に知るにつれて目標は変化するかもしれませんが、目標を定めてから開始することが重要です。

活動がCASに適切であるかどうかは、CAS アドバイザーが判断します。最初CASとして不適切とみなされた活動でも、適切な活動へと転換していくことは可能です。皆さんが新たな挑戦を見出し、個人的な目標を設定し、他の要件を満たすことができれば、多くの活動をCAS活動として有効なものとすることができます。

CAS の完了には、「学習の成果」について何らかの証拠があれば要件を満たします。この成果は、CAS活動の質（成長への寄与）が最も重要であるということを示しています。

すべてのCAS活動は計画され、活動し、評価されなければなりません。CASの課題は皆さんを成長させ、それが達成可能なものである必要があります。さらに生徒の学習に有益であることが重要となります。でなければ体験的な学習とはならず、時間をつかう意義がありません。平凡で繰り返しの多い活動や、実際の責任の伴わない活動はCASとはいえません。さらに、生徒は労働者ではありません。無報酬で働いてもらえる便利屋として扱われるような場合はアドバイザー、コーディネーターに相談してCAS活動を進めていく必要があります。

私たちの共有する価値観を照らし出す灯りのように、CAS は、IB の学習者像の特質を現実的かつ実際的な方法で生徒たちが実践し、個人として成長するとともに、他者との関係における自分の役割を認識する機会を提供します。個人や集団のさまざまな経験を通じて自分の興味のある分野を探究し、自分の情熱や個性やものの見方を表現することで、生徒は様々なスキル、物事に対する姿勢、そして気質を養っていきます。CAS は、レベルの高い学問的なプログラムを補完するものであり、自己決定をし、他者と共に活動し、目標を達成し、その達成感を得る機会をもたらします。

CAS は、生徒の内面の、そしてその社会性の成長を促します。有意義な CAS のプログラムとは、自分と他者を発見する旅路のようなものです。多くの生徒にとって、CAS は非常に大きな意味を持ち、人生を変えるほどの経験となります。生徒はそれぞれに異なる出発地点からスタートし、それぞれに異なるニーズや目標をもっています。このため CAS のプログラムは、生徒の興味、スキル、価値観、バックグラウンドなどに応じて異なります。

学校と生徒は、「DP の他の要素と同様に CAS を重視する必要があります、CAS のプログラムに取り組む時間を十分に確保しなければなりません。CAS の段階表を効果的に利用することで、生徒にとって建設的かつ連続性のある枠組みとプロセスを提供することができます。

CAS を成功裏に完了することは、IB ディプロマを取得するうえで必須の条件です。公式に評価はされませんが、生徒は自分の CAS 活動を振り返って、7つの学びの成果を達成したことを各自 CAS ポートフォリオで示す必要があります。

CAS のプログラムは、DP の開始と同時に正式に開始し、定期的に、理想的には週1回のペースで少なくとも18か月にわたって継続し、「創造性」と「活動」と「奉仕」を合理的なバランスで実践します。

CAS を行う生徒はすべて、CAS に取り組んだ証拠として CAS ポートフォリオに記録をつけ、完成させます。CAS ポートフォリオとは、CAS 活動を示す証拠を集積したもので、生徒が自分の経験を振り返るためのものであり、成績に反映されるものではありません。

CAS は、7つの CAS の学びの成果の達成をもって完了したことになります。生徒は、CAS ポートフォリオにそれぞれの学びの成果の達成を示す証拠を記録し、それを学校に提出します。

CAS 活動は、CAS の3つの要素のいずれか1つまたは複数にかかわるものとし、CAS 活動は、単発の活動でも複数回の継続的な取り組みでも構いません。

生徒はまた、最低1か月にわたる CAS プロジェクトに取り組み、主体的に行動して、困難なことでもやり抜く力を発揮し、問題解決能力、そして意思決定能力を養います。CAS プロジェクトは、CAS の要素のいずれか1つだけを取り上げたものでも、2つまたは3つの要素を組み合わせただけのものでも構いません。

生徒は、CAS 活動と CAS プロジェクトの枠組みとして、CAS の段階表（調査、準備、行動、振り返り、実証）を使用します。

生徒は、CAS コーディネーターまたは CAS アドバイザーと計3回の正式な面談を行い、その内容は記録されます。最初の面談は CAS プログラムの開始時、2回目の面談は1年目の終了時、3回目の面談は CAS プログラムの終了時に行います。

CAS では振り返りを重視します。振り返りは、深みのある豊かな CAS 活動を積み重ねるうえで不可欠です。振り返りを通じて生徒は、自分の考え、スキル、長所、短所、成長すべき点を探究できるようになり、それまでに学んだことをどのようにして新しい状況に応用するかを考えられるようになります。

## 5. 心構え

CAS を行う生徒には、次のことが期待されています。

- ・ 自発的に CAS に取り組む
- ・ CAS で期待されていること、および CAS の目的を明確に理解する
- ・ IB の学習者像と使命を参照し、自分の価値観、態度、特質を高める
- ・ 自分なりの目標を定める
- ・ CAS 活動についての計画を CAS コーディネーターまたはアドバイザーと話し合う
- ・ CAS の段階表を理解し、必要に応じて活用する
- ・ CAS 活動に参加し、時には自発的に活動するほか、少なくとも 1 回は CAS プロジェクトに取り組む
- ・ 自分の興味、スキル、才能を的確に認識し、CAS プログラム期間中にこれらがどのように発展していくかを観察する
- ・ CAS ポートフォリオに活動の記録をつけて、7 つの学びの成果に達成した根拠を示す
- ・ 振り返りのプロセスを理解し、CAS 活動を振り返るべき時期を確かめる
- ・ CAS プログラムで自分が達成したことを示す
- ・ CAS のコーディネーター、アドバイザー、またはスーパーバイザーと公式・非公式な面談を行い、コミュニケーションをとる
- ・ 自分の CAS プログラムで、創造性、活動、奉仕の適度なバランスがとれているかを確認する
- ・ 適切かつ倫理的に判断し、行動する

## 6. CAS の段階

### ◇Creativity（創造性）

創造的活動は、明確な目標または成果を伴う必要があります。CAS のすべての活動と同様、計画され、評価されなければなりません。これは、例えば、生徒が熱心な楽器演奏者である場合などは、難しいことかもしれません。生徒にとって、楽しみであり、情熱の対象であるものが CAS での体験として認められないのは不自然でしょう。では、どのように CAS の学習成果を達成することができるのでしょうか。CAS の課題は、生徒を成長させ、かつそれが達成可能なものである必要があります。もしかしたら、楽器演奏者は観客の前で演奏するために、特に難しい曲や、難しい演奏方法を学ぶかもしれません。資金集めのための活動で演奏したり、実演をしながら小さい子どもたちに音楽についての話をする場合もあるでしょう。適切な CAS の活動とは、より多く練習する、学校のバンドでより多く演奏会をするなど、ただの「同じことの繰り返し」ではありません。例えば、前述のように DP 科目の「音楽」や「ダンス」の科目を履修している生徒が日々練習することは CAS の活動に含まれません。ただし、DP の課題（コースワーク）以外で参加する音楽やダンス、芸術活動を排除するものではありません。

### ◇Activity（活動）

「活動」についても、同様の考えが適用されます。優れた運動選手は、CAS のための身体活動に参加するために、自分が関わっているスポーツのトレーニングや練習を中断することはないでしょう。一方、スポーツにおけるコーチングの近代的なアプローチでは、「反省的実践家」（reflective

practitioner)であることを強調しているため、コーチは生徒に有益な形で、適切なCASの原則や実践をスケジュールに組み込むことが可能です。目標を定め、計画し、自分自身の成果を振り返ることはきわめて重要です。生徒のスキルや知識を他の者に伝えるよう求めるなどして、生徒をより「成長させる」ことができるかもしれません。もし生徒が取り組んでいるスポーツが完全な個人種目である場合、別の楽しみや喜びを経験するためにチーム種目を試してみるとよいかもしれません。優れた「活動」の中には競技や競争ではなく、高い忍耐力（長距離トレッキングなど）や個人的な恐怖の克服（ロッククライミングなど）が求められる身体的挑戦も含まれます。学校はこのような活動におけるリスクを慎重に評価することが重要です。

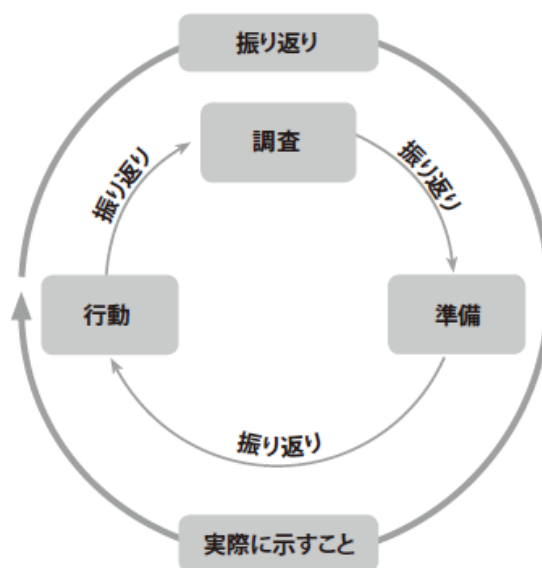
混乱を避けるために、CASで使用する「活動」(activity)という用語はIBの初等教育プログラム(PYP)のものとは異なることを記しておきます。PYPでの「行動」(action)とは、学習についての理念の一部を構成する強力なコンセプトです( IB資料(英語版)『Making the PYP happen: A Curriculum framework for international primary education (PYPの作り方: 初等教育のための国際教育カリキュラムの枠組み)』を参照)。一方、CASでは、身体的活動に特定されています。

#### ◇Service (奉仕)

奉仕活動が、生徒の学習に有益であることが重要です。そうでなければ体験的な学習とはならず(したがってCASとはいえません)、生徒の時間を使う意義がありません。平凡で繰り返しの多い活動や、実際の責任の伴わない「奉仕」は除外されます。生徒の人格を豊かにするという学習上の利益は、奉仕が無償で自発的であるという要件と相反するものではありません。

「(奉仕活動に関わる)すべての関係者の権利、尊厳、自律性を尊重」とは、奉仕活動のニーズを確認するために、関係するコミュニティーまたは個人との事前のコミュニケーションや十分な相談が特に必要であることを意味しています。この相互的な交流に基づくアプローチは、奉仕を受ける側の人の潜在的利益も、生徒の学習の機会も増大させます。

このような事前のコミュニケーションや相談は、直接、生徒自身が行うのが理想的です。それが不可能な場合は、学校は、非政府組織(NGO)などの適切なパートナーや仲介者とともに活動する必要があります。学校は、個人やコミュニティーに提供される奉仕が適切であることを保証するとともに、生徒が自分自身の行う人間的な活動の重大さを理解するように最大限の努力をしなければなりません。



CASの5つの段階

CAS の段階表は、生徒が CAS で何をしたいかを考え、計画を立て、それを実行する過程を支える枠組みとなり、また CAS のプロセスに連続性をもたらします。CAS の段階は、創造性・活動・奉仕の 3 つの要素、また CAS プロジェクト全体にあてはめて使用することができます。

CAS の段階表は、プロセスと流れを表すもので、生徒の生活のさまざまな側面に役立つ可能性があります。そのプロセスとは、好奇心や疑問を感じる興味の対象を自分で調べ、学習を進めることによって準備し、何らかの行動に移し、その過程で自分の行動を振り返って、自分が理解したことや自分がたどったプロセスを実際に示すというものです。これらの各段階を CAS に適用することで、生徒は自信を持ち、また柔軟性に富んだ考え方をもてるようになるため、将来起こり得る状況にも確信をもって対応できるようになります。

CAS の段階は、この図が示しているとおおり、2つの部分から成っています。内側の円は、調査、準備、行動、振り返りという 4 つの主なプロセスを表しています（振り返りは、重要な経験をするごとに断続的に行います）。外側の円は、振り返りと実際に示すことという 2 つの要素から成り、生徒が自分の経験を総括する際の道しるべとなります。

CAS の 5 つの段階は以下の通りです。

#### 段階 1 〈調査〉：

CAS 活動として何ができるかを考えるにあたって、まず自分の興味、スキル、才能、さらに人間としての成長や能力向上の余地のある部分を自覚します。そして、自分のやりたいことを調べてみて、CAS 活動の目的を決めます。奉仕に取り組む場合は、対応しようと思うニーズを明らかにします。

#### 段階 2 〈準備〉：

CAS 活動に伴う役割と責任を明確に理解し、行動計画を立て、具体的なリソースとスケジュールを確認し、その経験に必要なスキルがあればそれを身につけます。

#### 段階 3 〈行動〉：

アイデアや計画を実行します。この過程ではしばしば、意思決定や問題解決を行います。一人で行動するだけでなく、パートナーと一緒に、あるいはグループで行動しても構いません。

#### 段階 4 〈振り返り〉：

何が起きたか、何を感じたか、どんなアイデアを思いついたか、どんな疑問を感じたかを説明します。振り返りは CAS の間に随時行うことができ、その目的は、理解を深めるため、計画変更に役立てるため、経験から学ぶため、さらには自分の成長、功績、学びの成果との間で明確なつながりを見つけて自覚を高めるため、などです。振り返りは新しい行動につながるきっかけかもしれません。

#### 段階 5 〈実際に示すこと〉：

何をどのように学んだか、何を達成したかを明確にし、例えば CAS ポートフォリオを通じて、あるいはその他の公式・非公式な方法で、CAS 活動を他人と共有します。この実際に示すこととコミュニケーションを通して、生徒は自分の理解を固め、他の人の反応を喚起します。

生徒は、この段階表を理解したうえで確実に活用して CAS のプログラムに取り組む必要があります。

## 7. コースデザイン

DPCAS活動の18ヶ月間は以下のようになります。(IPCAS活動の12ヶ月間は以下のようになります。)

年	月	活動	内容
4年生 MYP5	1~3	5・6年次のCASについて ・年間の見通し ・報告書 ・リスクマネジメント ・アドバイザー、面談	・これまでのSA活動を振り返る ・部活動、ボランティア局、生徒会役員との連携 ・CAS活動について…Hand Book 配付
5年生 DP1 IP1	4	○CAS ガイダンス ・プロジェクトについて ・DP2からの説明会 →活動紹介など ○札幌市市民活動サポートセンターとの接続 ○HIWA との接続 → Newspaper 執筆 (What's on in Sapporo)	・CASノート(ポートフォリオ)の作成と使用方法 ・プロジェクトは発表会を実施 (プロジェクト以外も発表可) ・年間の見通し作成 ・NPO インターンシップについて →センター訪問計画(オリエンテーション) ・希望者のみ選択 ・アドバイザーの決定 ・ManageBacの活用
	5~6	第1回面談 コーディネーター (or アドバイザー)	・第1回目の面談までに年間スケジュールを計画 (活動をすでに始めていてもよい) ・プロジェクトや年間の見通しを確認 ・NPO インターンシップ決定
	7~8	CASノートの点検	・コーディネーター/アドバイザーにCASノートを提出・返却(面談へ向けて)
	9~10	プレ面談	・第2回面談に向けて進捗状況の確認・質問等
	11~2	活動継続	
	2	第2回面談 進捗状況の確認	・CAS活動へのアドバイス バランスのよい活動が行われているか確認 ・プロジェクトの進行状況(準備・計画)を確認
	3	研究成果報告会	・今年度のCAS活動の報告 CASの概要(IP/DP)・CASの活動報告(IP/DP)
6年生 DP2 IP2	4~5	DP1・IP1への活動紹介 (プロジェクト中心)	・DP2からDP1へCAS活動を紹介、Know-Howの伝達 手続き的知識(procedural)~する時には~すればよい
	6	第3回面談 コーディネーター or アドバイザー	・バランスよく活動が行われているか確認 ・プロジェクトの進行状況(準備・計画)を確認
	7~8	第4回面談※必要に応じて	・活動に不安があれば随時面談を行う。
	9	活動証拠作成	・CAS活動の終了 ・ポートフォリオの取りまとめ (アドバイザー→コーディネーター)
	10	IB本部へCAS活動報告	コーディネーターによりIB本部に活動完了者、未完了者の連絡

※IPCASについては1年目の12ヶ月間が卒業要件となります。IP2年目については任意での活動となりますので継続して活動を実施することは可能です。

## 8. CAS の流れ

段階	内容	必要な手続き／期限
<p>1. 調査（活動を始める）</p> <p>活動の4週間前～3週間前までに</p>	<p><b>① どのようなCAS活動にするかを検討</b></p> <p>1) 個人プロフィールの作成 …自分の興味、スキル、特技、成長すべき点を認識</p> <p>2) 社会的な取り組みを決める …ローカルまたはグローバルな懸念となっているトピックを1つ選び、自分たちの興味、スキル、特技を役立てる方法を考える</p> <p>3) コミュニティのニーズについて情報収集する …メディア、聞き取り調査、アンケート調査、観察・体験の方法を用いて実際の（真の）「ニーズ」を明らかにする</p> <p>活動を行う（決定する）際には以下の点に気をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全ではないもの</li> <li>・つまらないもの、平凡なもの、変化のないもの</li> <li>・社会的格差をもたらすもの、または社会的格差を拡大させるもの</li> <li>・布教活動を含むもの</li> </ul> <p><b>② 目標の明確化と学習成果の特定</b></p> <p>① を元実際の活動に対する目標と成果を特定する</p> <p><b>③ CAS レポートを提出（調査・探究・下調べ）</b></p> <p>活動内容 必要性（ニーズ） 下調べ（調査） ねらい（目標） 学習成果</p> <p>CAS レポート（報告書）は最低限度の記入事項を記載する。必要に応じてノートに追加記載、作成してもかまわない。</p> <p>担当のCASアドバイザーと面談を行い活動許可（サイン）をもらう</p> <p>実際に活動が始める前（行動に移す前）に報告書をアドバイザーに確認してもらう必要がある。許可なく活動し始めた場合はCAS活動として認定されない。</p>	<p>・C/A/Sの設定 ・学習成果の設定 ・目標（ねらい）の設定</p> <p>※学習成果は複数可 必要に応じてコーディネーターやアドバイザーに相談する。</p> <p>・ニーズの調査（奉仕 Service）</p> <p>・レポートの提出 ※報告書の書式が変わってもかまわないが、「調査・探究・下調べ」「準備」「活動内容・記録」「振り返り」の記載は必ず行うこと。</p> <p>・ManageBac を介するかどうかは未定</p>

<p>2. 準備（活動を始める）活動の3週間前〜2週間前までに</p>	<p><b>① 各種へのお願いと計画の作成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ そのトピックに取り組んでいる地元の団体や地域、国、国際的な団体を見つけて、活動実績を調べる。</li> <li>・ 準備段階で、自分たちが何をするのかを決定し、その行動が適切であることを当該分野の専門家や助言者に確認して計画。</li> <li>・ 計画を具体的に説明するレポートを作成。</li> <li>・ 「奉仕」の要素が絡むCASのプロジェクトに取り組む場合は、すべての関係者の役割と責任を明確にする。</li> <li>・ 各活動においてスーパーバイザー（教員外）が必要と判断された場合はスーパーバイザー承諾書と学校からのプリントを渡す必要がある。期日は必ず遵守すること。</li> <li>・ 保護者同意書は必ず用意すること。</li> </ul> <p>担当のCASアドバイザーと面談を行い活動許可（サイン）をもらう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スーパーバイザー依頼書、CAS説明をアドバイザーに確認・サインをもらいスーパーバイザーに提出</li> <li>・ 保護者同意書をアドバイザーに確認・サインをもらい保護者に提出し保護者サインをもらいアドバイザーへ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査でのアドバイザーによる活動許可をもらってから準備に入る</li> <li>※許可には必ずサインがのこる</li> <li>※活動開始の<u>3週間前</u>に提出・確認</li> <li>※スーパーバイザーが必要な場合は承諾書の提出は<u>2週間前</u></li> <li>・ 必要に応じてアドバイザーはスーパーバイザーや保護者に電話連絡をする。</li> </ul>
-------------------------------------	---	--

<p>3. 行動（活動する） 当日</p>	<p><b>① 書面がすべてそろった時点で活動許可</b></p> <p>CAS ノートにすべての書類（証拠）を貼付する ※同意書、依頼書はコピーを貼付</p> <p><b>② アイディアや計画を実行する</b></p> <p>活動が始まったら証拠としてジャーナル（ポートフォリオ）に記録を残す必要があります。ジャーナルはA4のノートを用意し、活動の記録していきます。必要に応じて写真などの記録を貼付して使用します。 （活動の記録はノートを自らが活用しやすいように工夫して使用する。ただし、映像などの媒体を使用したり、独自の記録を残す場合も可能であるため、アドバイザーと相談する必要がある。）</p> <p><b>③ 振り返り⇔行動</b></p> <p>多くの場合の活動は1日（1回）だけで完結することはありません。活動した後は必ず当日の振り返りを行い、その記録を残すことが求められ、次の活動に活かす必要があります。</p> <p><b>④ フィードバック</b></p> <p>活動を通して自分自身をみつめ、目標に近づいているかどうかを分析する必要があります。</p> <p><b>⑤ トラブルについて</b></p> <p>活動中に何かあった場合はすぐに保護者・スーパーバイザー・アドバイザーに連絡しましょう。</p> <p><b>⑥ スーパーバイザーがいる場合</b></p> <p>活動終了確認証にサインの記入を依頼する。 CAS ノート（ジャーナル）の使い方 調査・準備（当日スケジュールやレイアウト、図、準備物など活動計画時に盛り込めなかった詳細、は必ず追加記載しておく。 担当の CAS アドバイザーと 面談を行い活動完了（サイン）をもらう ※CAS ノートの終わりにアドバイザーからサインをもらう  ・スーパーバイザーがいる場合は、活動終了確認証をスーパーバイザーへ渡し、サインをもらう必要がある。</p>	<p>※同意書、依頼書の原 版はアドバイザーが 保管する。 ・ジャーナル（ポート フォリオ）に活動を記 録、写真なども活用し 活動の様子がわかる ようにする。  ※SA ノートの延長  ・活動中にトラブルや 問題が発生した時は アドバイザーに相談 する。  ※保護者、スーパーバ イザーは概要を把握 し必要に応じて支援 を行う。</p>
-------------------------------	--	--

<p>4. 振り返り (振り返り) 活動・行動後1週間以内</p>	<p>活動終了後は CAS ポートフォリオ (ジャーナル) に必要書類や資料を貼付し、活動成果物とともにアドバイザーに提出します。 ※スーパーバイザー (教員外) がいる場合は原則として自分で活動修了確認証を記入してもらいジャーナルと一緒に提出します。</p> <p><b>振り返りで以下のことをジャーナルにまとめて提出する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのように感じたか</li> <li>・なに気づいたか</li> <li>・活動について何を考えたか</li> <li>・活動が自分にとって何を意味したか</li> <li>・活動の価値は何だったか</li> <li>・活動から何を学び、どのように幅広く活かせるか</li> <li>・学びの成果の選択</li> <li>・どのような ATL スキルを使ったか、身につけたか</li> <li>・よい C/A/S (自分の選択した活動) とは？</li> </ul> <p>以下のことを考え上記項目を考える。</p> <p><b>①振り返りの価値を考える。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査: 生徒がコミュニティーのニーズを明らかにする場合調査の過程で、何が適切な振り返りとなりうるか。</li> <li>・準備: 他に何を知らなければならないかを考える過程で、どのような役割と責任を果たさなければならないか。理解を深めるために準備の過程で適切な振り返りは何であるか。</li> <li>・行動: 生徒が計画を実行し、さまざまなやり取り、洞察、挑戦、業績を得るには、行動の過程でどのような振り返りが必要か。</li> </ul> <p>振り返ることにより、生徒は、CAS 活動の価値について認識を深め学習成果を達成したことを明確に示せるようになる。</p> <p><b>② 行動を取ることが、なぜさらなる調査に結びつくかを考える</b></p> <p><b>③ CAS で要求されるからではなく、自ら考えて振り返りを行う</b></p> <p>担当の CAS アドバイザーと</p> <p style="text-align: right;">面談を行い活動完了 (サイン) をもらう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CAS ジャーナルの提出</li> <li>・活動完了におけるサイン (活動終了後 1 週間以内)</li> <li>・振り返りは CAS のプロセスの中で随時行われるべきものである</li> <li>※リフレクションの記載は随時行う。</li> </ul>
---	--	---

<p>5. 実証 部・DP1の年度末発表会</p>	<p>CAS活動をすべてジャーナルに記録として残すことは、CASの交流の大変楽しい部分です。</p> <p>また、発表のスタイルはどのような形でもかまいません。他の生徒がどのように実践しているかを、さまざまなアプローチやスタイルを必ず見せるようにします。</p> <p>自分のしたこと記録をさまざまな方法で幅広く集めて自分の成長や目標達成の様子を示す、という作業をどのように楽しむかを想像するよう促す。自分の理解を確かなものにし、他の人の反応を引き込むために、どのようなプレゼンテーションや展示をするのが理想的かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CAS発表会（報告会）を年度末に実施</li> <li>・成果をアウトプットする方法を検討 →他者と共有することができる内容 企画や成果を客観的に分析している 方法は自由（なんらかのパフォーマンスを発揮）</li> </ul> <p>※大切な活動の証拠となるので記録・保存が必要</p>	<p>・報告会における発表方法は個人に任せる。</p> <p>例) パフォーマンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P.P.</li> <li>・ポスター</li> <li>・歌（詩）</li> <li>・CM</li> <li>・壁新聞</li> <li>・講演会の実施</li> <li>・演劇</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
<p>6. 次の活動へ</p>	<p>活動のバランスを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の質</li> <li>・C/A/Sのバランス</li> <li>・学習成果のバランス</li> </ul> <p>CASポートフォリオや成果物は卒業要件の確認として大切なものとなります。提出の際にはバックアップをとり卒業まで保管しておくこと。</p> <p>DPは18ヶ月間の継続が必要です。各活動に隙間ができないようアドバイザーと連絡を密にとりましょう。</p> <p>CASすべての要件を満たし、学びの成果を達成する必要があります。</p> <p>IPは12ヶ月間の継続が必要です。各活動に隙間ができないようアドバイザーと連絡を密にとりましょう</p> <p>CASすべての要件を満たしますが、学びの成果をすべて達成する必要はありません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイザーと確認</li> <li>・面談</li> <li>・資料の保管</li> </ul> <p>C/A/Sは一つの活動で複数満たすことができる場合もあります。</p> <p>学びの成果も1活動につき1つとは限りません。</p>

## 8. 認識と賞賛について

個々の生徒のCAS活動は、様々な手段を通じて、学校、地域、世界へ発信されるべきものです。周囲に認識をさせる手段には以下のように様々なものがありますが、生徒自身がアイデアを出し、認識の方法を考えることもCASの重要な要件の一つです。

## 認識の例

- ・ 全校集会で CAS 活動やプロジェクトを説明したり、宣伝したりする時間を作る。
- ・ 学年集会で自分の経験やプロジェクトを紹介します。
- ・ 展示会を開催し、CAS 活動やプロジェクトを紹介します。
- ・ 学校新聞やニューズレターに CAS 活動やプロジェクトについての記事を書く。
- ・ 学校のウェブサイトの記事、写真、資料を載せる。
- ・ CAS 活動で連携している外部の団体を通じて、CAS の取り組みを宣伝してもらいます。
- ・ CAS ミュージアムとは、生徒が制作した展示物を入れる陳列ケースです。ポスター、工芸品、記事、写真などを 2 週間ごとに入れ替えます。
- ・ 学校年鑑誌に CAS についての特別なセクションを設けて、記事を載せる。
- ・ 生徒主体の CAS 発表会開催し、CAS プログラムの内容や楽しみ方を共有するフォーラムを実現する。

## 9. リスク評価と管理

IB と学習者像の特質では、「挑戦する人」になることを奨励しています。しかしこれは、生徒や教師が不必要なリスクを冒したり危険な状況に身を投じたりすることを奨励しているわけではありません。リスクをとりながら安全を期すうえで鍵となるのは、そのリスクの性質を十分に理解し、必要が生じた場合に危険をもたらしかねない状況の緩和方法を十分に理解する能力をもつことにあります。このため学校は、生徒をリスクから保護することと、CAS 活動に参加させることの間で適切なバランスを取る必要があります。本校における CAS 活動は次のようなリスクマネジメントを経て行われます。

- 危険を認識する
- 活動におけるリスク全体を評価する
- リスク削減のための管理方法を認識し、実行する
- これらの管理方法をモニタリングし、見直す

生徒は、これら一連のマネジメントを本校所定のフォームにしたがって記載をし、アドバイザーやコーディネーターへ提出します。その後、校内の判定委員会を経てリスクマネジメントが妥当と判断されれば、CAS 活動が認められます。

### ○リスクのパターン

パターン	説明
健康面	怪我、病気、メンタルなど、企画実行によって主に人の健康を損なう恐れのあるもの
損害面	器物破損とそれの場合の弁償など、企画実行によって対物賠償責任の発生する恐れのあるもの
災害	台風や地震、不審者との遭遇など、企画時における突発的な災害を想定するもの
運営目	出演者の欠席や機材トラブルなど、企画が続行不能になる恐れのあるもの
倫理面	参加者による環境破壊や企画による騒音、個人情報流出など、社会や環境に対するマナー違反に当たる恐れのあるもの

これらのパターンが誰に対して起こりうるか考える必要がある。活動参加者、協働者、施設運営者、CAS コーディネーター（CAS アドバイザー、スーパーバイザー）など、様々な立場で考える必要があります。さらに自分自身の安全をまもることを忘れてはいけません。

○対応策のパターン

パターン	内容	使用が想定される場合
Avoidance (回避)	想定される危機に巡り合わないための方策を考える	怪我などのリスクが高く、リスクを減少・制御することができない
Reduce (減少)	想定される危機を軽減させるための方策を考える	怪我などのリスクを減少することができる範囲のもの
Transfer (移動・振替)	危機が起こった場合の対応を別の部署へ委ねる	リスクを移動できる（保健や組織などへ）
Accept (受け入れ)	危機が起こることを想定しその場合の対応策を準備する	怪我などのリスクが低いのでリスクマネジメント方法を使い対処する

このパターンを念頭に置き、自らの企画する活動に潜むリスクを予見し、リスクの重要度に応じて対応策を練る必要があります。

○リスクアセスメント方法

- ① リスクとなりうる場面・状況を、リスクのパターンごとに想定、全て挙げる
- ② それらのリスクをどのように回避できるか、また減少できるか考える
- ③ 危険な状況になった場合の最も効果的な対処方法を選ぶ
- ④ 企画実行時において対処方法を実践する
- ⑤ 活動終了後、今回の対応方法が効果的であったかどうかを振り返る。また今回の方法を使用したことによって、活動における目標をきちんと達成できたかどうかを考える

特に重要なのは、健康面でのリスクマネジメントで、このプロセスにおいて健康面でのリスクを想定する場合、②と③のうちどちらを選択するべきか、その考え方を以下に示します。もちろん、その他のリスクパターンにも応用は可能です。

	頻度が高い	頻度が低い
重度が高い	死傷者が出る可能性が高く、制御が難しい ⇒リスクを回避もしくは振替させる必要がある	リスクを予測することが可能で死傷者が出る可能性もある。リスクを制御する方向で行ってもよいが、死傷者が出る場合は深刻なケースとなることが多い ⇒リスク回避、減少、振替させる必要がある。
重度が低い	リスクを予測することが可能で死傷者が出る可能性もある。リスクを制御する方向で行ってもよい ⇒リスクを減少させる必要がある	リスク自体は存在するが、死傷者が出る可能性は低い ⇒リスクを受け入れるが、リスクマネジメント（危機管理）を行うこと

対象になるかどうかは毎回の活動に照らし合わせる必要があります（困った場合はコーディネーターに相談する）。学校活動内の CAS 活動は保険の適用がされるが、学校活動外の CAS 活動の場合は保険が適用されない場合がある。また、学校活動外の「奉仕」においてはボランティア保険の適用がされる場合があるため、保険の対象を照らし合わせて確認する必要があります。

リスクの想定や実際の対応策、また責任の所在などについては、生徒のみで判断すること自体がハイリスクとなる。CAS コーディネーター、アドバイザー、スーパーバイザーや企画を開催する場所の担当者など、多くの方に相談することがリスクを軽減させます。場合によっては管理職（校長、副校長、教

頭) や保護者の判断が必要になることもあります。

自主性を重んじる CAS 活動を実施するためにも、個人が高い意識をもち、リスクアセスメントを行う必要があります。

内在的なリスクレベル			要求される行動
<input type="checkbox"/>	低	事故やけがの可能性が 少ない	・通常の計画の立て方にしたがってよい。
<input type="checkbox"/>	中	応急処置を必要とする事故やけがの可 能性がある	・通常の計画の中でリスクと管理方法を文書化する。
<input type="checkbox"/>	高	医療の処置を必要とする重大な事故や けがの可能性がある。	・この用紙を完成して提出する。 ・アドバイザーやコーディネーターの承認が必要。 ・保護者の同意が必要。
<input type="checkbox"/>	極大	生命の危険があるような重大な事故や けがの可能性が高い。	・学びの成果を達成するために代案や若干の変更を加え た計画にする。 ・この用紙を完成して提出する。 ・校長の承認が必要。 ・保護者の同意が必要。

## 10. 学校外での CAS 活動や CAS プロジェクトへの生徒の参加に関する保護者の同意

CAS 活動に従事する際には、リスクについて検討するとともに、保護者の同意を必ず取ることが必要になります。別紙にあるように本校所定の形式にしたがって、保護者の同意書を作成し、保護者の確認印をもらい提出をしてください。その際、保護者に確認をしていただく資料としては次のものがあります。

- CAS 活動提案フォームまたは CAS プロジェクト提案フォーム
- リスクマネジメントフォーム
- 保護者同意書

## 11. 「知の理論」(TOK) および「課題論文」(EE) を含む他の DP コースと CAS との関連付け

振り返りを発展させる

振り返りの4つの要素(起こったことを説明する、気持ちを表現する、アイデアを出す、質問する)を十分に理解したうえで、考えたことや感じたこと、また、行動したことを客観的に考察し、学習を統合していくことで、さらに高いレベルの思考スキルを養うことができます。「知の理論」(TOK)のコースで生徒が習得する批判的思考のスキルは、振り返りを発展させ拡大するのに役立ちます。TOKでは、「知るための方法」として感情、理論、言語の働きについて考察します。

生徒たちは、より深い問いを自分に投げかけることでさらに前進できることを認識します。

## 12. MYPにおける奉仕活動と行動 (Service as Action)

MYPではService as Action (以下SA)として、PYPの「行動」(実際に行い経験することによって学ぶこと)の上に成り立つ「奉仕活動」を経験する。これは、DPのCAS(創造性・活動・奉仕)のService(奉仕)にあたる活動に引き継がれ、そこで生徒は自分の長所と成長すべき点についての認識を高めていく。

IBの学習者は、人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動し、重なり合う幅広い地域やグローバルコミュニティの中で信念のある行動に取り組むための重要な手段として、他の人々で行う奉仕活動を重視しています。(原則から実践へ より抜粋)

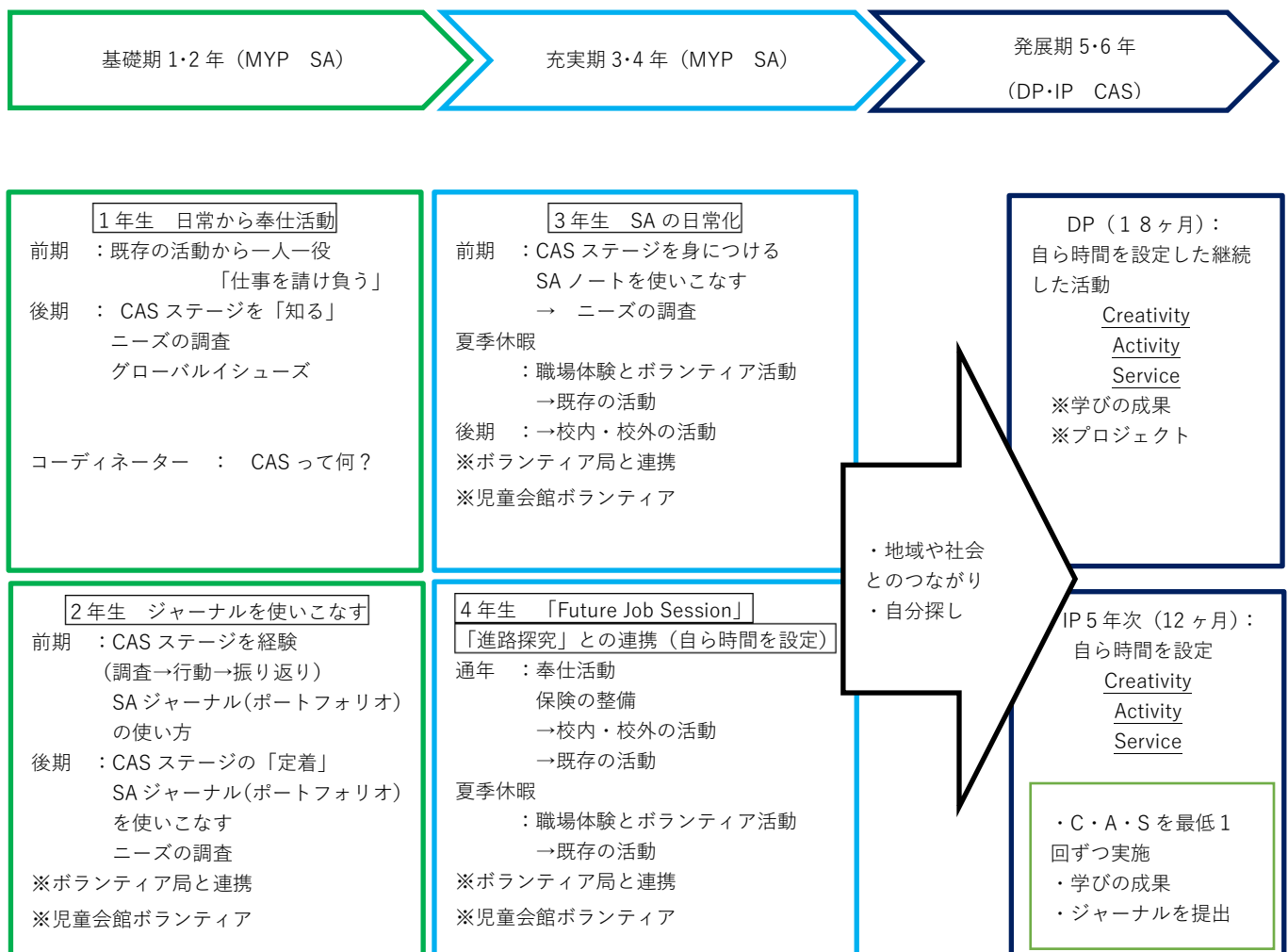
《奉仕活動の学習成果》

MYPではSAに取り組むことで

- ・自らの長所と成長すべき点を自覚するようになります
- ・新しいスキルを発達させるような課題に挑みます
- ・生徒主導の活動を話し合い、判断し、計画します
- ・粘り強く行動を続けます
- ・他の人々と協働します
- ・グローバルな取り組みや多言語主義、多文化理解を通して国際的な視野を発達させます
- ・自らの行動の倫理的意味合いを考えます

生徒は奉仕活動を通じて、IB学習者像、ATLスキルを養い、自律した学習者となります。

《本校のSA・CASの展望》



### 13. SA CAS の実施に伴う保険について

□入学時に全員加入する保険

	自分の怪我	個人賠償
<b>A</b> <b>独立行政法人</b> <b>日本スポーツ振興センター</b>  掛け金 年間 前期 460 円 後期 1200 円	<b>学校管理下で適用＝教育計画に基づくもの</b> ・授業中 ・コズプロ ・登下校 ・移動中 ・長期休業中、放課後の部活動、局、委員会活動・職場体験中 *交通事故で相手がわかっている場合は相手方の保険を適用するため対象外 *熱中症や風邪等、活動に伴う疾病も対象 健康保険を使って窓口負担分の全額+1割の見舞金(生活保護家庭は医療費自己負担がないため対象外) 死亡・後遺障害	補償なし
<b>B</b> <b>全国高 P 連賠償責任</b> <b>保障制度</b>  掛け金 年間 300 円	補償なし	<b>学校管理下内外で適用＝24 時間保障</b> <b>生徒の過失があり、他人の物を壊したり、他人にけがをさせたときの保険</b> *管理下で学校の管理責任がある場合は対象外 *喧嘩による加害行為は本人の故意とみなされるため対象外 1 億円まで補償 (免責 5000 円)

□充実期・発展期（3～6 年次）に全員加入する保険

<b>C</b> <b>札幌市社会福祉協議会</b> <b>ボランティア活動保険</b>  掛け金 年間 300 円 途中加入も同金額	ボランティア活動中の事故による本人の怪我 *家を出発から家に帰宅まで対象 *授業の一環として行うボランティアは対象外(部・サークルは可) *単位取得を目指した活動は対象外 通院 3000 円 入院 5500 円 死亡・後遺障害	ボランティア活動により他人の物を壊したり、他人にけがをさせたときの保険 *授業の一環として行うボランティアは対象外(部・サークルは可) *家を出発から家に帰宅まで対象 5 億円まで補償 (免責 5000 円)
--	--	---

ここでいうボランティアとは

「個人の自発的な意思により他人や社会に貢献することを目的とする行動」

である。

そのため、以下の枠組みの明確化が必要だと考えます。

- 1.CAS 活動は学校側が企画・運営する活動に生徒を参加させるようなケースを設けない。
- 2.保護者への説明で「CAS 活動は学校外の活動」と明言し、そのために保険やスーパーバイザーが必要であることを説明する。
- 3.不足と感じる家庭は任意の保険に加入してもらう。

## CAS Glossary 用語集

NO.	用語	解説
1	CAS	Creativity (創造性)、Activity (身体的活動)、Service (奉仕) ディプロマプログラムの中核要素の一つ。2年間のディプロマプログラムで学ぶ間、生徒は様々なCAS活動を継続的に行う。各CAS活動にはC/A/Sのいずれかが必ず含まれる必要がある。
2	コーディネーター	CAS コーディネーター： CAS プログラムの統括、および生徒のCAS活動の監督。
3	アドバイザー	CAS アドバイザー： CAS コーディネーターの統括の下、生徒一人一人にCAS活動全体のアドバイス・サポートを行う。通常はその同じ学校の教員がアドバイザーとなる。(クラス担任、学年担当教員)
4	スーパーバイザー	CAS スーパーバイザー： 生徒がCAS活動を行う際の活動現場監督者。(生徒の参加するボランティアプロジェクトの担当者、〇〇教室の先生や〇〇クラブのコーチなど)
5	コラボレイティブ	他人と協力してCASプロジェクトを成し遂げること。CASプロジェクトで特に重要視されている側面。
6	コミュニティ	生徒はその地域の一員である。CAS活動を自分の親しんだ地域で行うことも可能であるし、また自分にとってはあまり親しみのない地域で行い、自分の成長に繋げることも出来る。
7	エクスペリエンス	CASの経験とはCASの3つの要素の少なくとも1つを含んだ内容で行った活動である。一度で完結するCASの経験もあれば、連続して行われる経験もある。
8	グローバル	「グローバル」とは、特定の地域だけでなく、全世界をも視界に入れた重要性や関係性を持つ事を意味する。
9	インタビュー	面談とは正式なダイアログ(会話)を行うことである。CAS活動を行う間、少なくとも3回の面談を行い、それらを記録する。
10	ラーニングアウトカム	CASにおける「学習成果」とは、CASプログラムでCAS活動を行う間にCAS活動を通じて達成すべき成果のことである。意味のある、また目的意識の高いCAS活動を通じ、7つの「学習成果」を達成するために必要なスキル、特質、理解を深める。
11	リフレクション	CASの中心部分である「振り返り」は、生徒の学びや成長を裏付ける個人の考え、認識や感情などを段階的に深く追及するものである。

# Understanding yourself

Grade5 Class \_\_\_\_\_ Number \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

1. これまでの人生で、一番印象に残っている「自分の成し遂げたこと」は？
2. 今、自分が一番自信をもっている特技・スキルは？
3. これまでずっと「いつか習得したい」と思ってきたスキルは？
4. これまでずっと「いつか挑戦したい」と思ってきた事は？
5. これまでの経験の中で、一番予想外だった経験は？
6. その「予想外な経験」を受け、同じ経験をもう一度するならば、どうしますか？
7. これまでに実践した奉仕活動は？
8. 10の学習者像をすべてもつ人のイメージをアニメのキャラクターや映画やドラマの主人公にあてはめて、イラストで表してみよう！



Inquirers/Knowledgeable/Thinkers/Communications/Principled/Open-minded/Caring/  
Risk-takers/Balanced/Reflective

# CAS Report

◇ 活動 No.

『 』

◇ 活動要件

C A S

◇ 活動内容

『 』

◇ 活動期間

開始『 』 ~ 終了『 』

Class No.

Name





	Name/Grade	Year	Class	Number	Name
条件	CAS に推奨される条件	<input type="checkbox"/> Creativity <input type="checkbox"/> Activity <input type="checkbox"/> Service		<input type="checkbox"/> 自主的な活動 <input type="checkbox"/> 継続した活動	<input type="checkbox"/> 協働的な活動 <input type="checkbox"/> 社会と結びつく企画
調査・探究・調べ	Activity (活動内容)	自ら選択			
	Needs (必要性) 根拠 ※Service のみ	Level 1 ・校内のニーズに応じた奉仕活動 ・校内の既存の団体 (部・局・ユニットなど) を通じた Activity または校内外のニーズに応じた奉仕活動 ・校外の既存の団体の (奉仕) 活動に参加した活動 ・様々な課題について学び、取り組む Level 2 ・自ら (奉仕) 活動を計画し、個人で活動 ・自ら (奉仕) 活動を計画し、有志を募って運営した活動 Level 3 ・自ら (奉仕) 活動を計画し、有志を募って運営した活動がコミュニティにおける継続的な社会活動へとつながった活動 ・教科で学んだ力を利用して自ら (奉仕) 活動を計画し、個人で活動 ・教科で学んだ力を利用して自ら (奉仕) 活動を計画し、有志を募り運営した活動 Level 4 ・教科で学んだ力を利用して自ら (奉仕) 活動を計画し、有志を募って運営した活			
	Investigation (下調べ・調査)				
	Level (活動のレベル)				
	Goal (ねらい) (Reason/Motivation)				
	7つの学びの成果	<input type="checkbox"/> 自らの長所と成長すべき点を認識 <input type="checkbox"/> 課題に挑戦し、その過程で新しいスキルを習得する。 <input type="checkbox"/> 自ら CAS 活動を計画し開始することができる。 <input type="checkbox"/> 活動を継続し、やり遂げる粘り強さを示す。 <input type="checkbox"/> 自らのスキルを活かし、また他者と共に活動する意義を認識する。 <input type="checkbox"/> グローバルな課題に取り組む。 <input type="checkbox"/> 選択と行動の倫理を認識し、考察する。			
リスクアセスメント	別紙リスク評価プリント参考	<リスクのパターン> <input type="checkbox"/> 健康面 <input type="checkbox"/> 損害面 <input type="checkbox"/> 災害 <input type="checkbox"/> 運営面 <input type="checkbox"/> 倫理面			
	・リスクのパターン ・対象 ・対策のパターン	<対象> <input type="checkbox"/> 活動参加者 <input type="checkbox"/> 協働者 <input type="checkbox"/> 施設運営者 <input type="checkbox"/> 教員 <input type="checkbox"/> 保護者 <input type="checkbox"/> その他	<対策のパターン> <input type="checkbox"/> 回避 <input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> 移動・振替 <input type="checkbox"/> 受容		
	プリントを使用し、活動において想定できるリスクについて記述。面談・点検時にアドバイザーと相談できるようにする。	<リスクの具体> <input type="checkbox"/> 本校で加入している保険でサポートできないリスクが想定できる ・独立行政法人日本スポーツ振興センター ・全国高P連賠償責任保障制度 ・札幌市社会福祉協議会ボランティア活動保険 <input type="checkbox"/> 自費で一定以上の費用を支払う必要がある <input type="checkbox"/> 市外への移動が必要である <input type="checkbox"/> 企画の準備や行動に7時以前、19時以降の活動が必要である <input type="checkbox"/> 多くの配慮を必要とする他者との接触を図る <input type="checkbox"/> 当該生徒および関係者の個人情報流出する可能性がある <input type="checkbox"/> 交通費・昼食費等が支給される ( 円) ※食費・交通費以外については、保護者及びコーディネーターに確認すること。内容により金銭の受け取りが出来ないことがある。			
		<リスク評価> 低 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 極大 <input type="checkbox"/>			



1. In what way did you change through this activity?

この活動は、あなたにどのような変化をもたらしますか？

2. In what way are the prescribed learning outcomes connected to your activity?

学習成果はどのように活動と関わりますか？

3. What evidence of your activity were you able to record?

活動の成果をどのように残すことができますか？

保護者署名・印 上記の活動を理解し、活動に同意します。

\_\_\_\_\_ 印

Advice:担当の先生からのアドバイスをメモしましょう

活動を許可します \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日 CAS アドバイザーサイン \_\_\_\_\_



準備	Name/Grade	Year	Class	Number	Name
	Period (活動期間)	year	month	day	
		~ year	month	day	
	Place of Activity (活動場所)				
	Activity Plan (活動計画)	具体的に記入しましょう			
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     プリントを使用し、活動において想定できるリスクについて記述。面談・点検時にアドバイザーと相談できるようにする。                 </div>			
リスク評価	別紙リスク評価プリント参考 ・リスクのパターン ・対象 ・対策のパターン	<リスクのパターン> <input type="checkbox"/> 健康面 <input type="checkbox"/> 損害面 <input type="checkbox"/> 災害 <input type="checkbox"/> 運営面 <input type="checkbox"/> 倫理面	<対象> <input type="checkbox"/> 活動参加者 <input type="checkbox"/> 協働者 <input type="checkbox"/> 施設運営者 <input type="checkbox"/> 教員 <input type="checkbox"/> 保護者 <input type="checkbox"/> その他	<対策のパターン> <input type="checkbox"/> 回避 <input type="checkbox"/> 減少 <input type="checkbox"/> 移動・振替 <input type="checkbox"/> 受容	
		<リスク評価> 低 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 極大 <input type="checkbox"/>			
許可	依頼書・同意書の有無	<input type="checkbox"/> スーパーバイザー依頼書 <input type="checkbox"/> 保護者同意書			
保護者署名・印 上記の活動を理解し、活動に同意します。					
印					
Advice: 担当の先生からのアドバイスをメモしましょう					

活動を許可します

\_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日 CAS アドバイザーサイン \_\_\_\_\_



活動により、増ページ可能

電子機器での活動報告も可能



	Name/Grade	Year	Class	Number	Name
条件	CAS に推奨される条件	<input type="checkbox"/> Creativity <input type="checkbox"/> Activity <input type="checkbox"/> Service		<input type="checkbox"/> 自主的な活動 <input type="checkbox"/> 継続した活動	<input type="checkbox"/> 協働的な活動 <input type="checkbox"/> 社会と結びつく企画
振り返り	学びの成果を振り返る ・成果を選んだ理由は何か ・当初の計画から追加と訂正はあったのか ・Global contexts に沿って行えたのか ・ATL スキルは何を使用したか <input type="checkbox"/> コミュニケーション S <input type="checkbox"/> 協働 S <input type="checkbox"/> 整理整頓する力 <input type="checkbox"/> 情動 S <input type="checkbox"/> 振り返り S <input type="checkbox"/> 情報リテラシー S <input type="checkbox"/> メディアリテラシー S <input type="checkbox"/> 批判的思考 S <input type="checkbox"/> 創造的思考 S <input type="checkbox"/> 転移 S	<input type="checkbox"/> 自らの長所と成長のポイントを認識した。 <input type="checkbox"/> 課題に挑戦し、知識やスキルを習得した。 <input type="checkbox"/> 自ら CAS 活動を通じて社会とつながりを感じた。 <input type="checkbox"/> 活動を継続し、達成感ややりがいを感じた。 <input type="checkbox"/> 自らのスキルを伸ばす機会があった。 <input type="checkbox"/> グローバルな課題に取り組んだ。 <input type="checkbox"/> 選択と行動の倫理を認識し、考察した。			
	Reflection (活動の振り返り) ・どのように感じたのか ・何に気付いたのか ・活動について何を考えたのか ・活動が自分にとって何を意味したのか ・活動の価値は何だったのか ・活動から何を学び、どのように幅広く活かせるか	・どのように感じたか ・何に気づいたか ・活動について何を考えたか ・活動が自分にとって何を意味したか ・活動の価値は何だったか ・活動から何を学び、どのように幅広く活かせるか			
	○証拠を示す ・活動に携わった方 ・スーパーバイザー	※事後アンケートなど調査がある場合は空きページに記載する ※活動内容の詳細はノートに記録する			



1. Why did you choose this activity? (objectively)

なぜ、あなたはこの活動を選びましたか？

2. What did you hope to accomplish by this activity? (Introspectively)

この活動であなたは何を成し遂げましたか？

3. What did you learn , about yourself , your weaknesses , strengths? (Introspectively)

あなたが学んだ、あなた自身のことは何ですか？

4. What was your biggest achievement from this activity? (Introspectively)

この活動であなたが得た最も大きな成果は何ですか？

保護者署名・印 上記の活動を完了したことを確認しました。

\_\_\_\_\_ 印

Advice: 担当の先生からのアドバイスをメモしましょう

活動を完了します \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 CAS アドバイザーサイン \_\_\_\_\_

リスクを伴う CAS (Creativity, Activity, Service) 活動に関する同意のお願い

いつも本校の学習活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。お子様が希望する CAS 活動について、リスクを伴う活動と考えられることから、保護者の同意が必要であると判断いたしました。つきましては、お子様から詳細を確認いただき、下記項目の必要事項に記入の上、同意いただける場合は署名捺印をお願いいたします。また、活動の概要がわかる要項などを合わせてご提出ください。

提出いただいた書類は、控えとして複写をお渡ししますので、ご家庭で保管していただきますよう、よろしくお願いたします。

- 本校で加入している以下の保険ではサポートできないリスクが想定できる
  - ・独立行政法人日本スポーツ振興センター
  - ・全国高 P 連賠償責任保障制度
  - ・札幌市社会福祉協議会ボランティア活動保険
- 自費で一定以上の費用を支払う必要がある
- 市外への移動が必要である
- 企画の準備や行動に 7 時以前、19 時以降の活動が必要である
- 配慮を必要とする他者との接触を図る (介護、傷病、被災など)
- 当該生徒および関係者の個人情報流出する可能性がある
- 交通費・昼食費等が支給される ( \_\_\_\_\_ 円)
  - ※食費・交通費以外については、保護者及び CAS コーディネーターに確認すること。謝金・礼金は原則辞退することになる。

CAS 活動内容 (概要)	校外 校内
活動期間 開始日～終了日	
活動先 名称・住所・電話	

[問い合わせ] 011-788-6987  
CAS コーディネーター

同 意 書

上記の CAS 活動を行うにあたって、保護者として活動を確認し学校活動下における CAS 活動が行われることを理解しています。活動を行う期間中、生徒が守るべき諸規則や CAS コーディネーターの指示に従うよう指導します。活動により自らの健康状態や何らかの被害を受けたとしても、貴校の CAS 活動にかかわるスタッフまたは貴校に対し、責任を問うものではありません。

ついては、保護者の責任の下、活動内容を確認し以上の確認項目をふまえて同意の意志を表明します。

年 月 日  
\_\_\_\_\_年\_\_\_\_組 生徒氏名 \_\_\_\_\_

保護者氏名 \_\_\_\_\_ 印

年 月 日  
アドバイザー (担任) 署名 \_\_\_\_\_

CAS コーディネーター \_\_\_\_\_ 印

### CAS の活動における SNS への公開について

保護者の皆様におかれましては、本校の教育活動にご協力いただき誠にありがとうございます。  
さて、DP/IP 年次の生徒が現在取り組んでおります CAS (Creativity,Activity&Service) において、作成した成果物を公表していくことがあります。IB で求められている高度な挑戦という要素を担保する上では、成果物を SNS に投稿することも 1 つの方法であり、SNS は、社会的にも認知されているツールであり、それを効果的に利用していくことは生徒の将来を見越した情報リテラシー能力を育む上でも大切なことであると認識しております。しかし、このツールに関しては、様々なリスクが存在することも事実で、投稿後にそのリスクが発生するという性質があります。そこで、本校としては SNS への成果物の投稿を以下のような方針に基づいて保護者の方の管理責任の下、認めていきたいと考えておりますので、ご協力よろしく願いいたします。

#### 【成果物を SNS へ投稿する際の方針】

- 1 保護者の許可があること。  
保護者の承諾書の提出をもって、保護者の管理責任の下、投稿を認める。
- 2 学校名や学校の個人（自分を除く）が特定できるものでないこと。
- 3 倫理的・政治的・宗教的等、第三者に不快感を与えないよう、十分な配慮があること。

#### 【学校における生徒への指導内容】

以下の点については、学校においても生徒に伝えますが、保護者の方の視点からもご指導いただけますようお願い申し上げます。

- ・ SNS は全世界に発信されることを改めて理解し、炎上や批判に会うリスクを十分考慮すること。
- ・ あくまで発表の 1 つの形式であって、その必要性については自分の研究の目的と照らして十分考慮すること。
- ・ 何かトラブルに巻き込まれそうになったら、すぐに保護者の方や学校の先生に報告すること。
- ・ 今後、運用上問題が発生した場合は、その都度対応策を協議し、禁止事項等を加えることがあること。

[担当 CAS コーディネーター Tel 788-6987]

# 承諾書

以下の要件を満たすことを確認の上、下記の成果物を SNS 上で公開することを承諾いたします。

## 要件

- 1 学校や学校の個人（自分を除く）が特定できるものでないこと。
- 2 倫理的・政治的・宗教的等、第三者に不快感を与えないよう、十分な配慮があること。

《公開する内容》

(例) CAS で作成した、バンド演奏の技能を向上させるビデオを YouTube に公開します。

\_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日

生徒氏名 \_\_\_\_\_

保護者氏名 \_\_\_\_\_

印

※作成した書類は、CAS コーディネーターの佐藤光に提出をしてください。

保護者各位

市立札幌開成中等教育学校  
校 長

### ボランティア活動保険について

日頃から本校の教育活動にご協力いただきありがとうございます。IB 校の MYP では SA (Service as Action)、DP/IP では CAS (Creativity、Activity、Service) という奉仕活動を含む活動があります。この活動は学校が企画・運営する活動ではなく、生徒が自主的に活動し報告することが要件とされています。概要や方法は授業の中で学習しますが、活動そのものは学校管理下だけでなく、授業外でも行われます。

については、下記の通り学校活動外の活動中でも生徒の安心・安全を保障するためにも本校 3 年生～6 年生の期間に毎年「ボランティア活動保険」(札幌市社会福祉協議会) に加入していただいております。また、この保険の保険料 (300 円/年) は学年諸費で引き落としさせていただきますのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 補償されるボランティア活動について

- ・ボランティア活動として企画立案された活動
- ・日本国内での活動
- ・無償の活動
- ・個人の自発的な意志により他人や社会に貢献することを目的とする活動

#### 2. 補償される内容について

- ・ボランティア活動中の事故による本人の怪我  
(通院 3000 円/1 日 入院 7000 円/1 日)  
家を出発してから家に到着までが対象  
授業の一環として行うボランティア活動は対象外  
単位取得を目指した活動は対象外
- ・ボランティア活動により他人の物を壊したり、他人にケガをさせた場合  
(5 億円まで補償)  
※授業の一環として行うボランティアは対象外 (部・サークルは可)  
家を出発してから家に到着までが対象

#### 3. その他

学校活動内に関してはすでに加入してある独立行政法人日本スポーツ振興センター・全国高 P 連賠償責任保障制度が適用されます。

本年度の保険適用期間は 2019 年 4 月～2020 年 3 月 31 日となります。上記の保険で補うことができない場合の活動はリスク評価のうえ、活動を中止または続行するか、個人で任意の保険に加入していただくこととなります。

保険に関する詳細や質問は下記までよろしく申し上げます。

【担当 CAS コーディネーター (TEL788-6987)】



年 月 日

<SA スーパーバイザー依頼状>

様

## SA スーパーバイザーのお願い

いつも本校の学習活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

本校生徒が計画した SA 活動において、生徒の活動を見守ってくださる方が必要であると、担当教員が判断いたしました。

別紙の「本校の CAS・SA プログラムについて」および生徒が作成いたしました「SA レポート」をご覧ください。また、本活動のスーパーバイザーをお引き受けいただきますようよろしくお願いいたします。

活動者： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ チーム \_\_\_\_\_ 番 氏名 \_\_\_\_\_

活動名： \_\_\_\_\_

連絡先：(Tel) 0 1 1 - 7 8 8 - 6 9 8 7

(住所)市立札幌開成中等教育学校

札幌市東区北 2 2 条東 2 1 丁目 1 - 1

担当： \_\_\_\_\_

※活動時、学校教員（アドバイザー）の現場監督が必要な場合は、上記担当へ理由と役割をご連絡ください。



## 市立札幌開成中等教育学校 CAS・SA プログラムについて

本校は MYP/DP を実施する IB ワールドスクール認定校です。

### IB とは DP/MYP とは

DP/MYP とは、世界共通の教育カリキュラムとして世界的に認められた国際バカロレア機構（IBO）のつくった、中学生～高校生を主な対象とする教育プログラムです。IBO は多文化に対する理解と尊厳を通じて、平和でよりよい世界の実現のために貢献する、探究心、知識、そして思いやりのある若者の育成を目的としています。この目的を達成するために、IB では、学習者に対し、「CAS・SA プログラム」を用意しています。

### CAS/SA とは

学校の授業時間外の時間を使い、生徒自身が自らの成長を促すために、自ら企画・決定し、活動するプログラムです。CAS とは、「Creativity（創造性）」「Activity（活動）」「Service（奉仕）」の頭文字をとったもので、本校 5・6 年生が実施します。SA とは「Service as Action（奉仕活動）」の頭文字をとったもので本校の 1～4 年生が実施します。生徒は、自分を成長させられるような挑戦に満ちた活動を企画し、行っていくことになります。

### 活動例

例として、以下のような活動が想定されます。

- ・自分の特技である絵を活かし、紙芝居を製作して幼稚園で披露する。(Creativity、Service)
- ・毎日トレーニングを積み上げ、今までチャレンジしたことのなかったチャリティーマラソンに参加する。(Activity)
- ・自分が育った地域に貢献するため、地域で行われるお祭りの設営補助チームを立ち上げ運営に協力する。(Activity、Service)

### 学校側の体制

生徒の自発的で自由な活動を支援するため、学校では CAS コーディネーターを中心とした教員によるアドバイザー（担任）が組織されております。アドバイザー（教員）1 名につき生徒 26～27 名を割り当て、アドバイザーは生徒ひとりひとりが企画した活動を確認・許可します。学校外の団体等の担当者様と連携がとれるよう連絡先を把握します。必要に応じてアドバイザーまたはコーディネーターが同行いたします。

また、企画提案の際にはリスク管理を行うよう指導し、文書化したものをアドバイザーがチェックし、危険なことや不明なことがある場合には企画を練り直すよう指示します。生徒が企画する活動に対応可能な保険に加入することを学校として義務付けています。

## 活動のルール

- ・生徒が自分と向き合い、誠実に活動を継続しているかを確認するため、活動の記録を残すよう指導しています。これに伴い、活動中の写真・動画撮影をすることがあります。また、運営側の担当者様から活動を証明するサインを求める場合があります。
- ・活動の対価として賃金が発生する場合、その活動は CAS/SA として認められません。
- ・布教活動等、他者の倫理観に抵触する可能性のある行為は認められません。
- ・目的は、労働ではなく、社会貢献を含む自発的活動とそれに伴う生徒自身の成長です。

※生徒主体の活動のため、ご迷惑をおかけすることがあるかもしれません。ご不明な点等ございましたら、右記までご連絡ください。

## CAS スーパーバイザーについて

学校外で活動する場合、その活動を支援していただける団体の方に、スーパーバイザーをお願いしております。スーパーバイザーになっていただく方には、次のことをおねがいたします。

- ・生徒が安全で誠実な行動がとれているかを監督をお願いいたします。
- ・生徒の活動を見守り、活動が適切に行われたことを証明していただきます。
- ・本プリントや生徒本人の活動企画ご了承いただける場合はスーパーバイザー依頼書に必要事項をご記入の上、サインをお願いいたします。  
必要に応じて学校側のアドバイザー（またはコーディネーター）からご連絡させていただくことがございます。
- ・生徒が相談にあがる場合がございます。ご対応いただければ幸いです。学校側で必要と判断した場合は、アドバイザー（またはコーディネーター）が現地に伺うことがございます。
- ・生徒が約束の時間になっても現れない等、活動に不適切な点が見られた場合は、生徒の保護者または学校にご連絡ください。
- ・活動の記録と実際の生徒の行動に相違がないかご確認いただき、「スーパーバイザーの証拠」にサインをお願いいたします。

その他、不明な点がございましたら、下記の電話番号までご連絡ください。

市立札幌開成中等教育学校

〒 065-8558 札幌市東区北 2 2 条東 2 1 丁目 1 - 1

☎ 011-788-6987

CAS コーディネーター

## CAS チェックリスト

創造性	活動	奉仕

私の CAS プログラム	はい/いいえ	注記 日付
CAS プログラムを計画した証拠がある		
18 か月以上にわたって CAS に定期的に取り組んだ		
CAS 活動を計画する際に、CAS の段階を理解して段階表を使用することができた		
「創造性」、「活動」、「奉仕」のバランスがとれている		
1 か月以上にわたるプロジェクトに1 つ以上取り組んだ		
7 つの学習成果をすべて達成した証拠がある		
・自分の長所を理解し、これから個人として成長していくべき分野を特定した証拠 (学習成果 1)		
・課題に挑戦し、その過程で新しいスキルを習得した証拠 (学習成果 2)		
・CAS 活動を計画し開始した証拠 (学習成果 3)		
・CAS 活動を継続し、やり遂げる粘り強さを示した証拠 (学習成果 4)		
・他の人と協働するスキルを実証し、その意義を認識した証拠 (学習成果 5)		
・グローバルな意義のある問題に取り組んだ証拠 (学習成果 6)		
・選択と行動の倫理的な側面を意識し、それについてよく考えた証拠 (学習成果 7)		
重要な CAS 活動について振り返りを行った		
必要に応じてスーパーバイザーに報告した		
1 回目の CAS 面談を行った。		
2 回目の CAS 面談を行った。		
3 回目の CAS 面談を行った。		
CAS ポートフォリオを完成させた		

年 組 番 氏名 ( )  
CAS プロジェクト提案フォーム

生徒プロジェクトのリーダー (複数なら全員の名前)			
メンバー			
プロジェクト名			
プロジェクトの目的			
CAS の段階	CAS の段階ごとに、何をしたか、何をするつもりかを説明しなさい。		
・ 調査			
・ 準備			
・ 行動			
・ 振り返り			
・ 実証			
・ プロジェクトの協力者や受益者の団体がある場合は、その名前			
団体の連絡先担当者、電話番号、メールアドレス、(該当する場合)			
教師または外部のスーパーバイザー (該当する場合)			
CAS プロジェクトの予定日			
リスク評価は必要ですか？	はい/いいえ	リスク評価は完了しましたか？	はい/いいえ
生徒の署名			
CAS アドバイザーの署名と日付			
校長の署名と日付			

